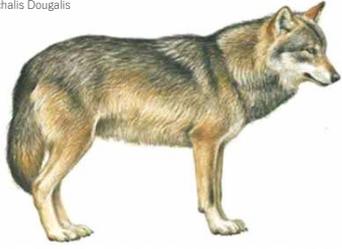


エゾオオカミとタスマニアタイガー

～日豪の絶滅動物から考える人と自然の新しい関係～

Tasmanian Tiger Meets Hokkaido Wolf: Australia & Japan beyond Eco-anxiety

© Paschalis Dougalis

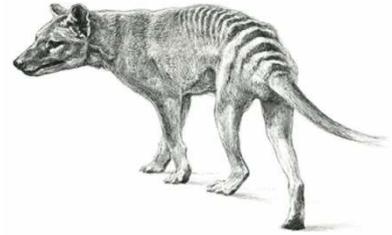


2023年10月6日[金] 13:00～14:30

鳥取県立博物館 講堂

定員：150名（申込不要）

© Paschalis Dougalis



オーストラリアからはアデレード大学の学生などが参加します。学生はもちろん、どなたでもご参加いただけます。

日本とオーストラリアをオンラインでつないだシンポジウムです。エゾオオカミとタスマニアタイガー（別名：フクロオオカミ）についてのビデオ映像と、エゾオオカミを題材にした手塚治虫のマンガ『口口の旅路』のデジタル版をご覧ください。その後、オーストラリアの大学生とズームなどを使って話し合います。持続可能な人と自然の新しい関係について、一緒に考えてみませんか。

■ 私たちの今

気候危機の時代といわれる今日、世界中で若者の「エコ不安」が問題となっている。小さな氷にしがみついたホッキョクグマ。そのイメージに代表される生物の大量絶滅は、人々、特に若者に怒りや悲しみ、無力感などをもたらしている。

問題は二酸化炭素をどう減らすかというようなことだけではない。気候危機、大量絶滅などの問題の解決には、ここに至った道、すなわち、現代社会の根底にある、人間中心主義、人と自然の関係を根本的に問い直す必要がある。

その必要性は世界中で叫ばれているが、実際にそれがどういう関係なのかは見えない。人と自然の新しい関係を想像するのに参考となるものが乏しいからである。「エコ不安」は実は現代社会の「想像力の危機」とつながっている。今私たちに必要なものは何なのだろう。

■ エゾオオカミとタスマニアタイガー

エゾオオカミとタスマニアタイガーはどちらも、19世紀に近代的農業の発展をはばむ害獣として、補償金付きで駆除され絶滅に至った。その歴史は悲惨だが、その後、それぞれの国で、絶滅種について考えるために役立つユニークな物語が生まれた。

オーストラリアではタスマニアタイガーの生存を信じる人々が、種の保存のために新しい形の環境保全運動を続けている。一方、日本にはエゾオオカミの物語として手塚治虫の『口口の旅路』がある。

この二つの物語には人間と動物の関係を再想像するための大きなヒントがある。そのヒントを学び、私たちに必要なことを考えよう。



© Tezuka Productions

■ 司会進行

オーストラリア会場

米山尚子（アデレード大学）



日本会場

川上 靖（鳥取県立博物館）



このプロジェクトは、豪州政府外務省の豪日交流基金の研究助成2022-23により、手塚プロダクションの協力を得て行われる。

プロジェクト・チーム：アデレード大学 Associate Professor Shoko Yoneyama (Lead Investigator), Professor Melissa Nursey-Bray (Co-investigator), Professor Philip Weinstein (CI), Ms Danielle LeMieux (Early Career Researcher) 鳥取県立博物館 Dr Yasushi Kawakami (International collaborator)。なお、このプロジェクトは、鳥取県立博物館で2019年に開催された「手塚治虫のメッセージ：人と動物、共に生きるために」が基になり企画された。



主催：アデレード大学・鳥取県立博物館
The University of Adelaide Tottori Prefectural Museum
協力：手塚プロダクション

問合せ：鳥取県立博物館 学芸課
電話 0857-26-8044
〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地